「伊沢ともに学ぼうメンターチーム」から はじまる「伊沢対話型授業研究会」の実践を通して 阿波市立伊沢小学校

「伊沢対話型授業研究会」とは

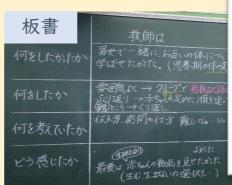
同じメンターチームの教職員が指導案の作成時から関わり、教材研 究や授業構想をともに考え、授業研究会では、子どもと教師が「何を したかったのか」「何をしたか」「何を考えたか」「どう感じたか」 という4つの柱に沿って、主体的・対話的な協議を参加者全員で行う。

事例Ⅰ:ジャンプアップ研修にて

養護教諭が4年生で保健の授業を実施。メンターチームで授業を考え、 研究会でも自分の授業として話し合った。研究会が終わった後も参加 者(管理職を含む)の話は続いており、管理職からも「みんなで授業 (研究会)をつくっている感じがしてよかった。」という感想をいた だいた。

授業研究会後の様子







事例2:研究授業及び対話型授業研究会の様子

県教育委員会学校訪問で実施した1年・3年の授業研究会では、指導主事等も一緒になってざっくばらんに 対話型授業研究会を行い、参加者の力量形成を図った。





3 年生 対話型授業研究会

出典、参考:やってみませんか 「土成サークル型メンター制研修」実践事例集 https://www.narutou.ac.jp/_files/00182072/01_donaripamphlet2022.pdf

1年生 算数科 授業研究会



ら、「数日前体調を崩していましたが、一緒 に授業を考えたチームの先生が、「しんど かったら、私が代わりに授業するよ。」と 言ってくれるほど自分事になっていることに 感激した。」と語っていました。

また、ベテラン教員もメンター制研修に一 緒に参加することで若手・中堅教員から刺激 を受け、研修を楽しんでいる様子や対話の中 から、「自己変革しないと…」といった前向 きな言葉を聞くことができました。

主幹教諭がメンター制研修をひっぱってくれている。 教務主任として、若手の相談にも乗ってくれる。研究 授業や授業研究会についても新たな提案をし、リーダ シップを発揮しながら、全教職員の力量アップに取り 組んでいる。